

計画検討委員会 検討資料  
(評価指標算定等資料1)

平成27年12月18日  
沖縄県

# 目次

## (1) 沖縄の地形・地盤

- ①地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ②地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ③活断層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

## (2) 災害

- ①津波、液状化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ②土砂災害、浸水被害・・・・・・・・・・・・・・ 6

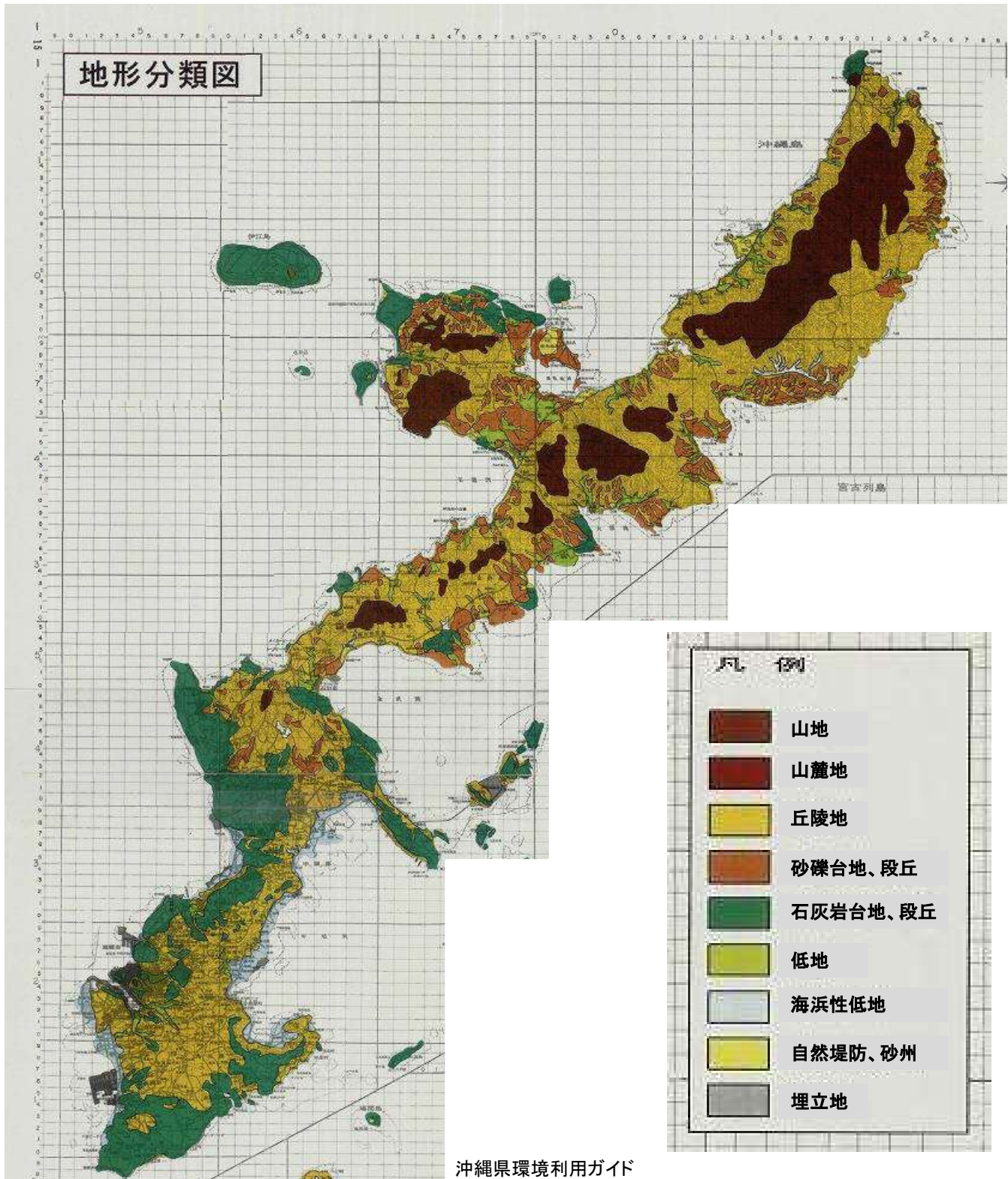
## (3) 環境

- ①自然環境(陸域植物)・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ②自然環境(陸域動物)・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ③自然環境(地下水)・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ④自然環境(人触れ、景観、歴史文化)・・・・・・ 10
- ⑤自然環境(景観)・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ⑥自然環境(自然環境法令等)・・・・・・・・・・・・ 12
- ⑦生活環境(騒音等)・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ⑧都市計画区域・・・・・・・・・・・・・・ 14

# (1) 沖縄の地形・地盤

## ① 地形

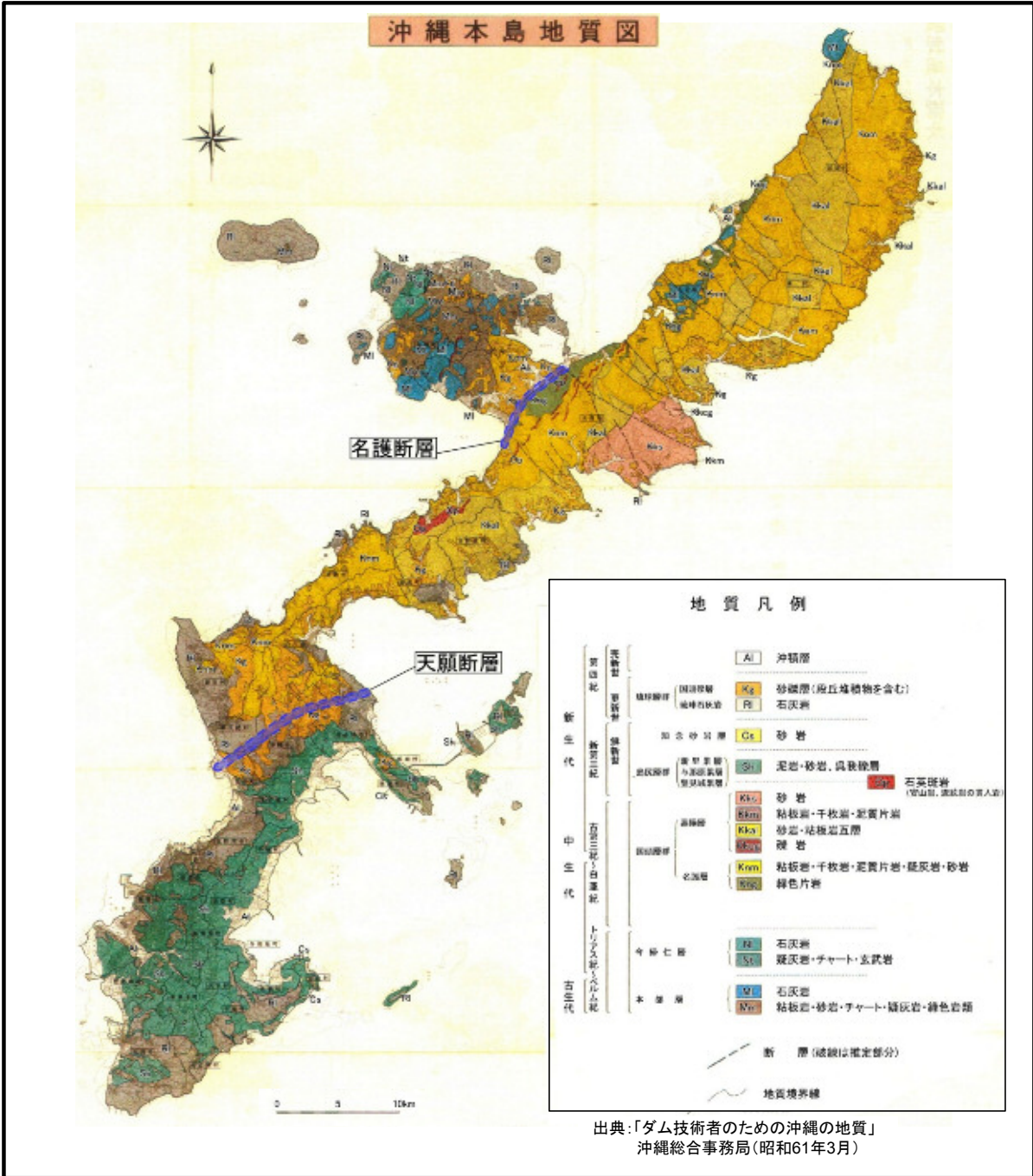
- 北部は、山地、丘陵地が多い。
- 中南部は、丘陵地や石灰岩台地・段丘が広がっている。



# (1) 沖縄の地形・地盤

## ②地質(平面図)

- 北部は、主に硬い石灰岩の今帰仁層と本部層、風化しやすい国頭層群に覆われている。
- 中北部は、国頭層群名護層を基盤としている。
- 中南部は、島尻層群泥岩層を基盤としている。
- 本島全域に、強度にばらつきのある琉球石灰岩が分布している。
- 北部では名護断層、中南部では天願断層等が知られている。



(1) 沖縄の地形・地盤  
 ②地質(断面図)

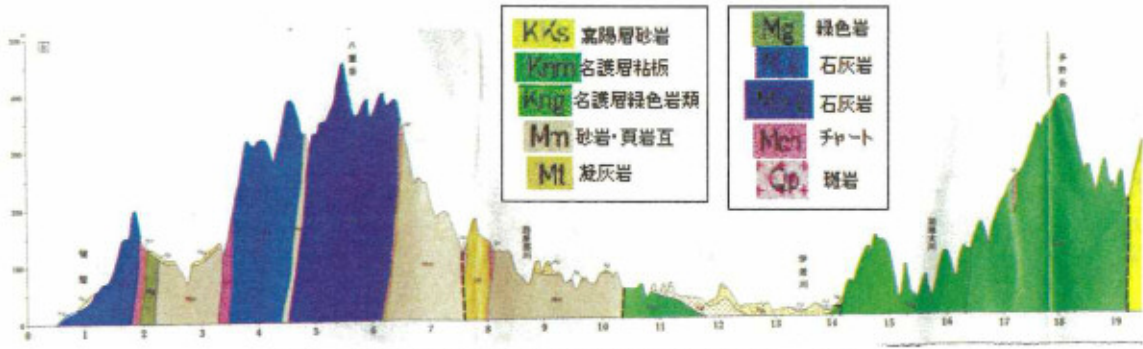


図 沖縄本島北部地質断面図 (断面 a-a')

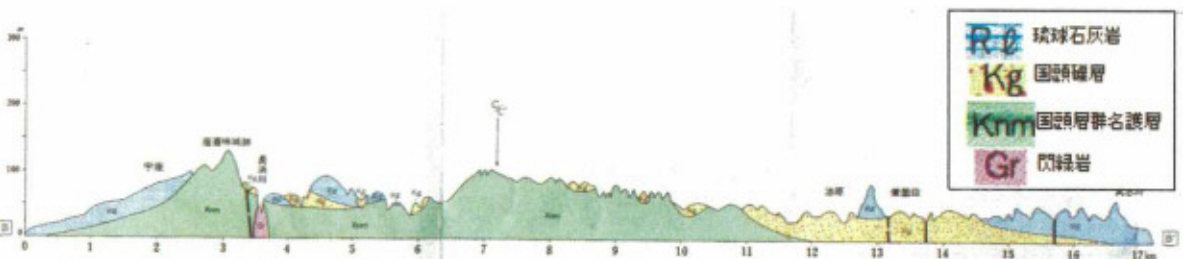
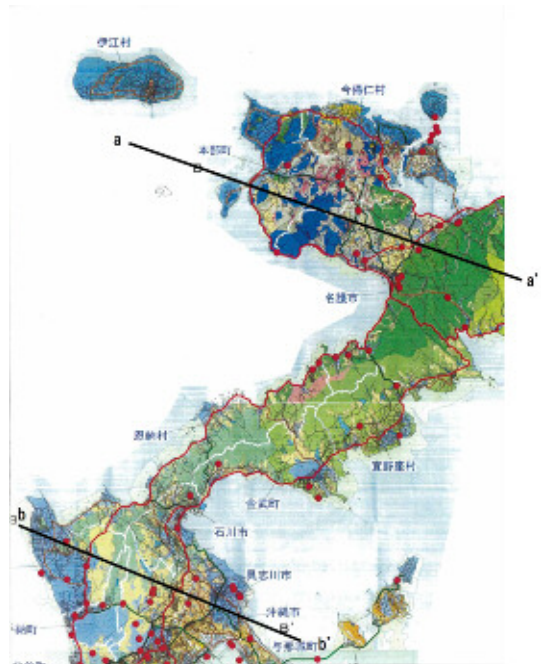


図 沖縄本島中南部地質断面図 (断面 b-b')



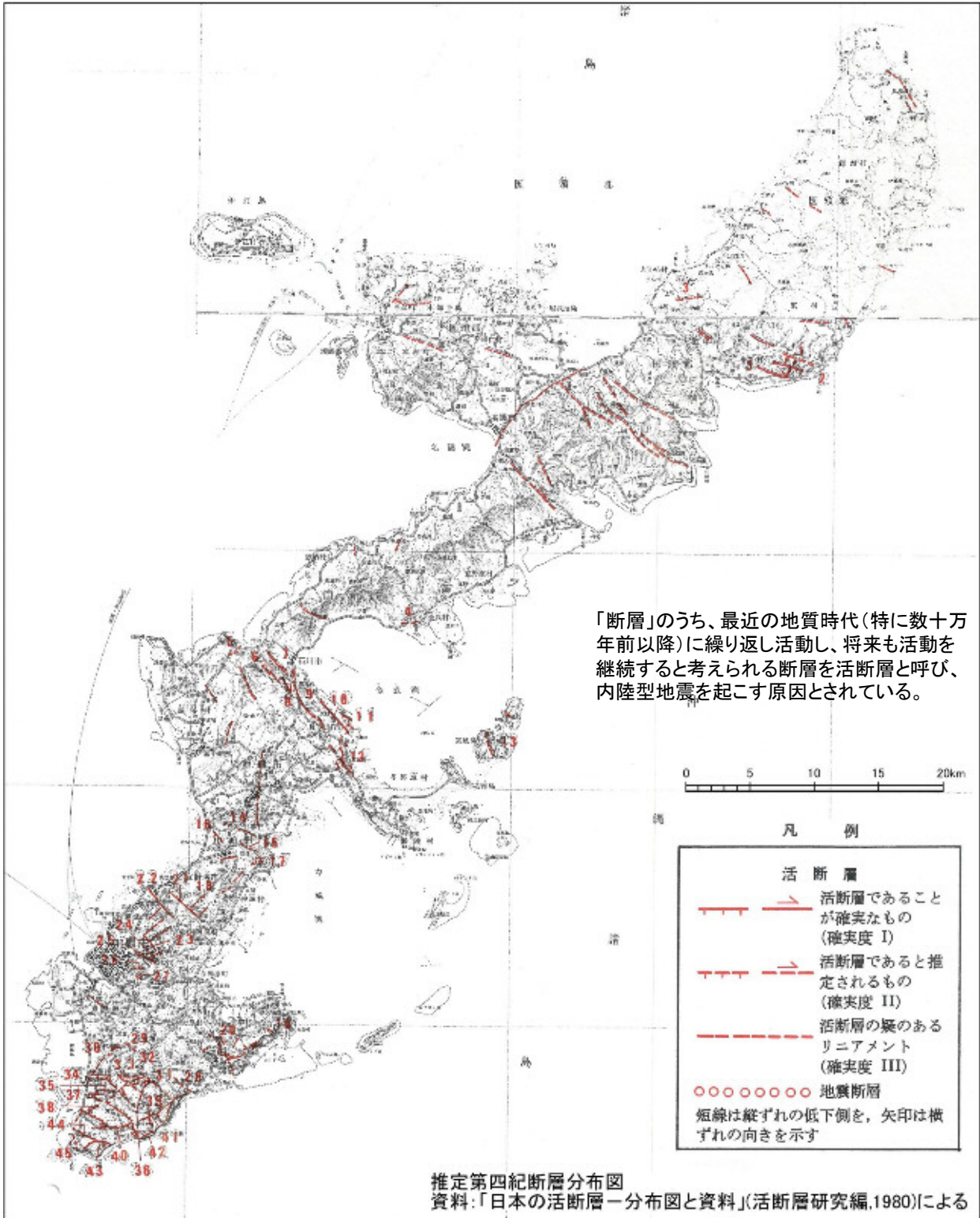
図 沖縄本島中南部地質断面図 (断面 c-c')



# (1) 沖縄の地形・地盤

## ③ 活断層

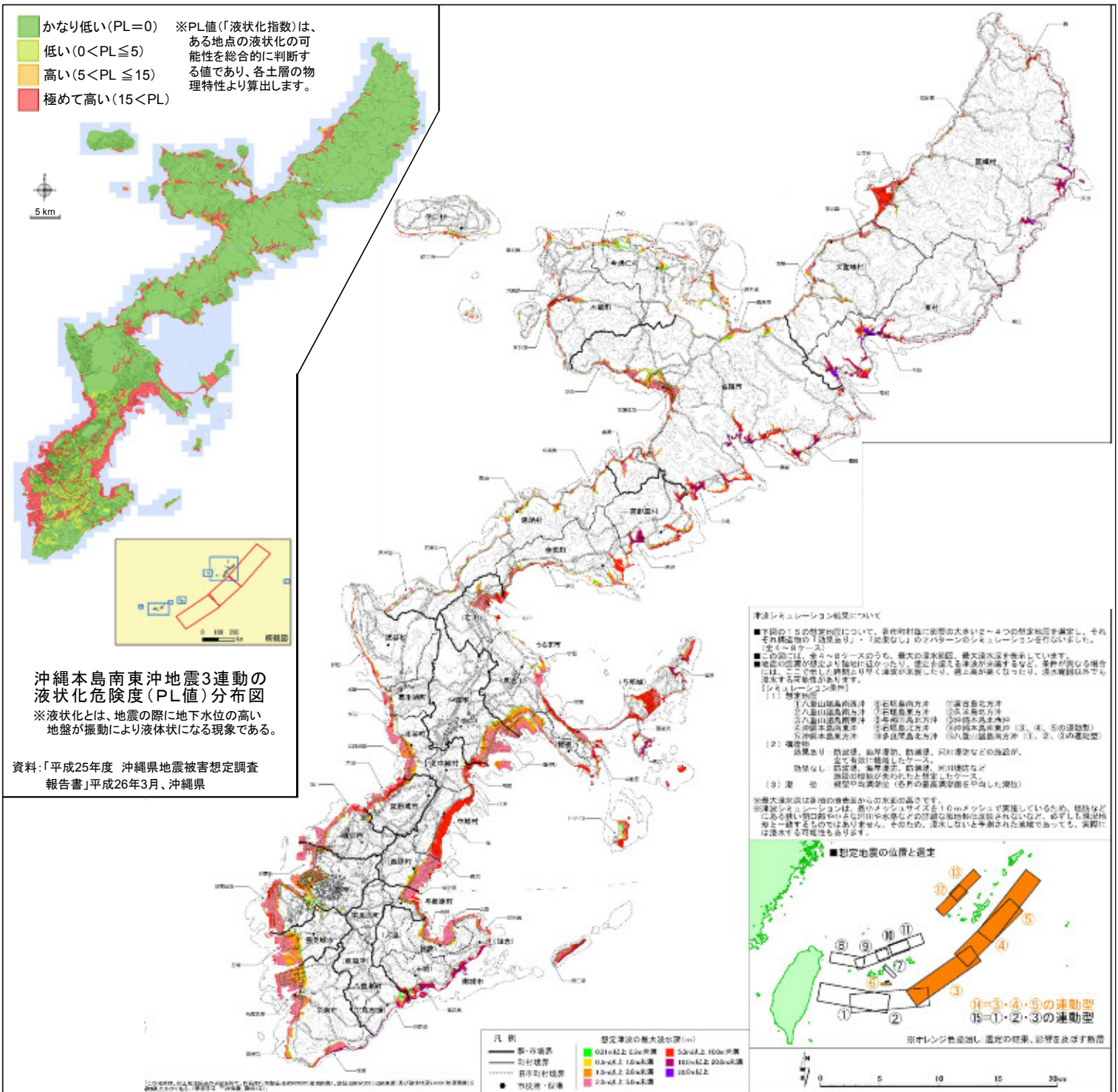
■ 活断層は、中南部に集中しており、北部では名護市、本部半島、東村等に存在している。



## (2) 災害

### ① 津波、液状化

- 想定津波の最大水深が大きい地域としては、太平洋側の東村、名護市、宜野座村、南城市等があげられる。
- 地震による液状化の可能性が高い地域としては、中南部沿岸の埋立地及び本島全域の河口部(沖積層)があげられる。



## (2) 災害

### ② 土砂災害、浸水被害

- 中南部地域の東側に土砂災害危険箇所が連坦している。
- 中南部においては、浸水被害状況等を勘案して、6水系8河川が水位周知河川として指定され、浸水想定区域が設定されている。

水位周知河川に指定されている6水系8河川

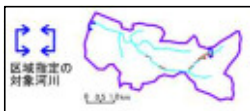
水系名	河川名	左右岸	区間
安里川	安里川	左岸	南風原町字新川593番地先から泊高橋に至る。
		右岸	那覇市首里鳥堀町5-39-2地先から泊高橋に至る。
	久茂地川	左岸	那覇市牧志町1丁目地先の安里川分派点から国場川合流点に至る。
		右岸	那覇市前島1丁目地先の安里川分派点から国場川合流点に至る。
真嘉比川	左岸	那覇市字古島406番地の1地先から安里川合流点に至る。	
	右岸	那覇市字古島407番地先から安里川合流点に至る。	
安謝川	安謝川	左岸	那覇市首里石嶺町3丁目80番地先から海に至る。
	右岸	那覇市首里石嶺町3丁目4番地先から海に至る。	
国場川	国場川	左岸	南風原町字宮城当川原380番2地先から漫湖を含み明治橋に至る。
	右岸	南風原町字大名宮城原181番3地先から漫湖を含み明治橋に至る。	
小波津川	小波津川	左岸	西原町字池田東佐明350番1地先から海に至る。
	右岸	西原町字池田東佐明353番2から海に至る。	
比謝川	比謝川	左岸	沖縄市字胡屋5丁目355番3から海に至る。
	右岸	沖縄市字胡屋5丁目355番3から海に至る。	
天願川	天願川	左岸	うるま市石川山城地先から海に至る。
	右岸	うるま市石川山城地先から海に至る。	

※水位周知河川とは、洪水予報を行わない河川で、洪水により国民経済上重大な損害又は相当な損害を生ずる恐れがある河川において、住民の皆様が安全な場所への避難及びその準備を行う目安となる水位「氾濫危険水位（特別警戒水位）」に達した時、その旨を関係機関に通知するとともに、一般に周知しなければならないと指定した河川のことである。

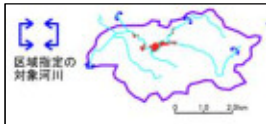
比謝川水系浸水想定区域図(●)



安謝川水系浸水想定区域図(●)



安里川水系浸水想定区域図(●)



国場川水系浸水想定区域図(●)

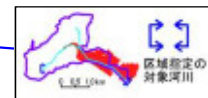


天願川水系浸水想定区域図(●)



※浸水想定区域図とは、洪水防衛に関する計画の基本となる降雨により当該河川がはん濫した場合に浸水が想定される区域を、シミュレーションを行い示した図である。

小波津川水系浸水想定区域図(●)



出典

- ・国土数値情報 土砂災害危険箇所 第2.0版を基に作成
- ・浸水想定区域は、沖縄県土木建築部河川課HPより作成

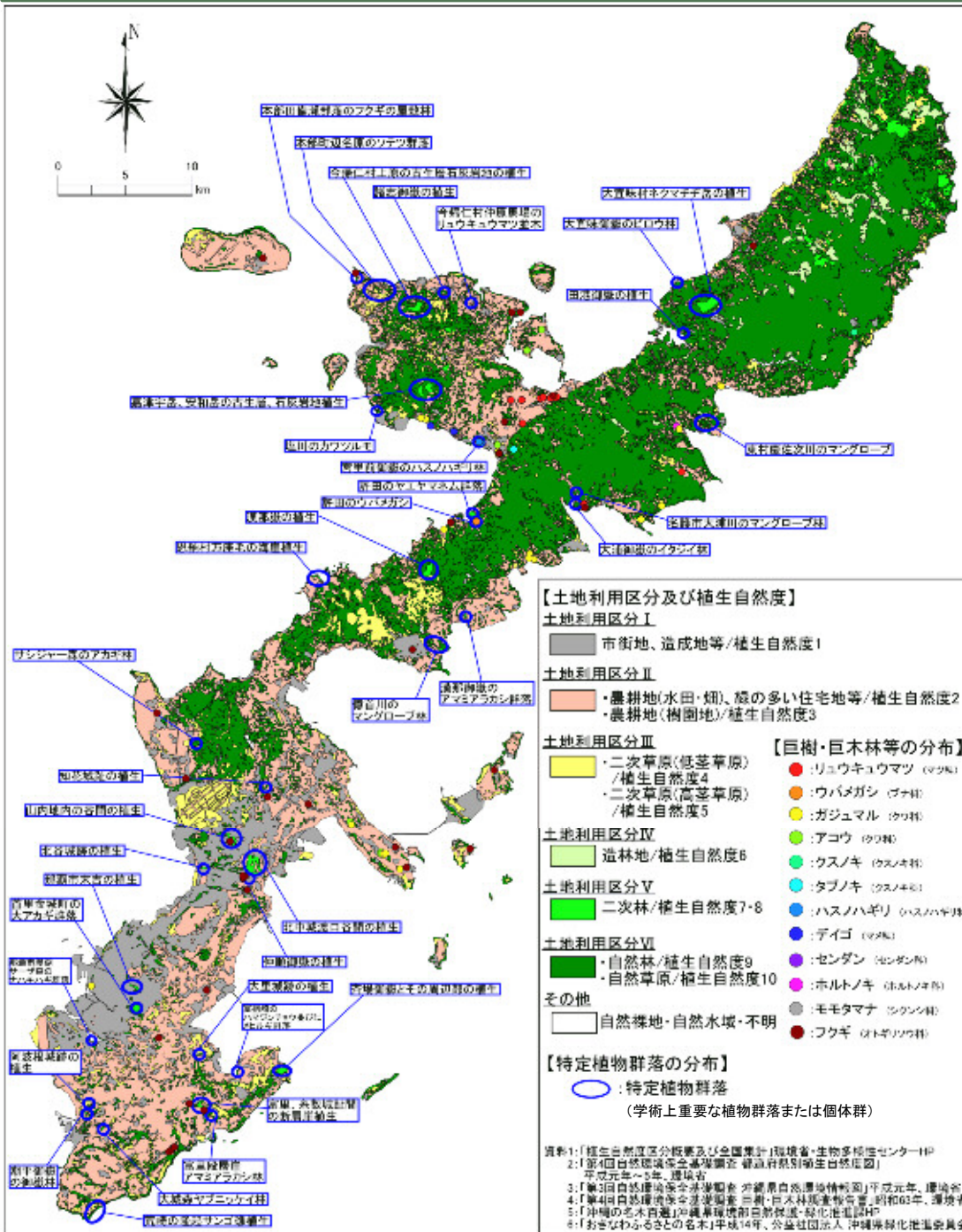


# 1. 評価に必要な項目

## (3) 環境

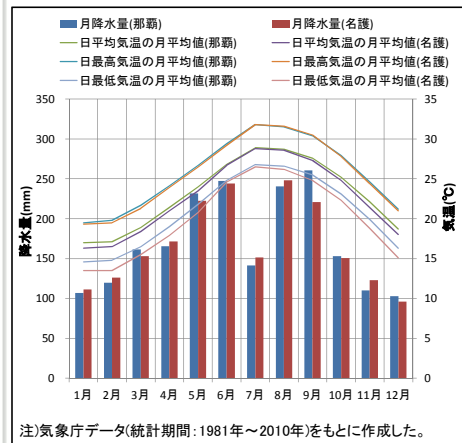
### ① 自然環境(陸域植物)

- 沖縄県は、年間をとおして温暖な亜熱帯海洋性気候をもつ。
- 北部は、ブナ科のイタジイ(スダジイ)を中心とする自然度の高い樹林地が広がり、中南部の一部には、クスノキ科のタブノキやトウダイグサ科のアカギ等が優占する樹林が御嶽や墓地、崖地等に分布する。
- 特定植物群落、保全すべき巨樹・巨木林が本島全域に点在している。



### 【沖縄の気象の状況】

#### ■ 降水量・気温



#### ■ 日の出・日の入り

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
日の出	7:17	7:05	6:37	6:06	5:43	5:37
日の入り	17:59	18:21	18:38	18:53	19:09	19:22
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日の出	5:46	6:01	6:14	6:28	6:48	7:08
日の入り	19:23	19:04	18:33	18:01	17:40	17:40

**注) 国立天文台データ(統計期間:2005年~2014年/那覇市)をもとに作成した。**

#### ■ 台風の発生数・接近数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6
接近数	0.7	0.4	0.2	0.5	0.8	3.0	3.9
	8月	9月	10月	11月	12月	年合計	
発生数	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.5	
接近数	4.1	5.4	3.7	1.2	1.0	25.1	
発生数	0.9	1.0	0.5	0.1	0.0	3.6	
接近数	1.2	1.2	1.1	0.0	0.0	5.8	

**注1) 沖縄気象台データ(統計期間:1981年~2014年)をもとに作成した。**

**注2) 接近とは、台風の中心が沖縄気象台(那覇)の300km以内に入ることを示す。**

**注3) 台風が二つの月にまたがって接近した場合は両月に加算する。**

**注4) 接近数は月合計と年で異なる場合がある。**

### (3) 環境

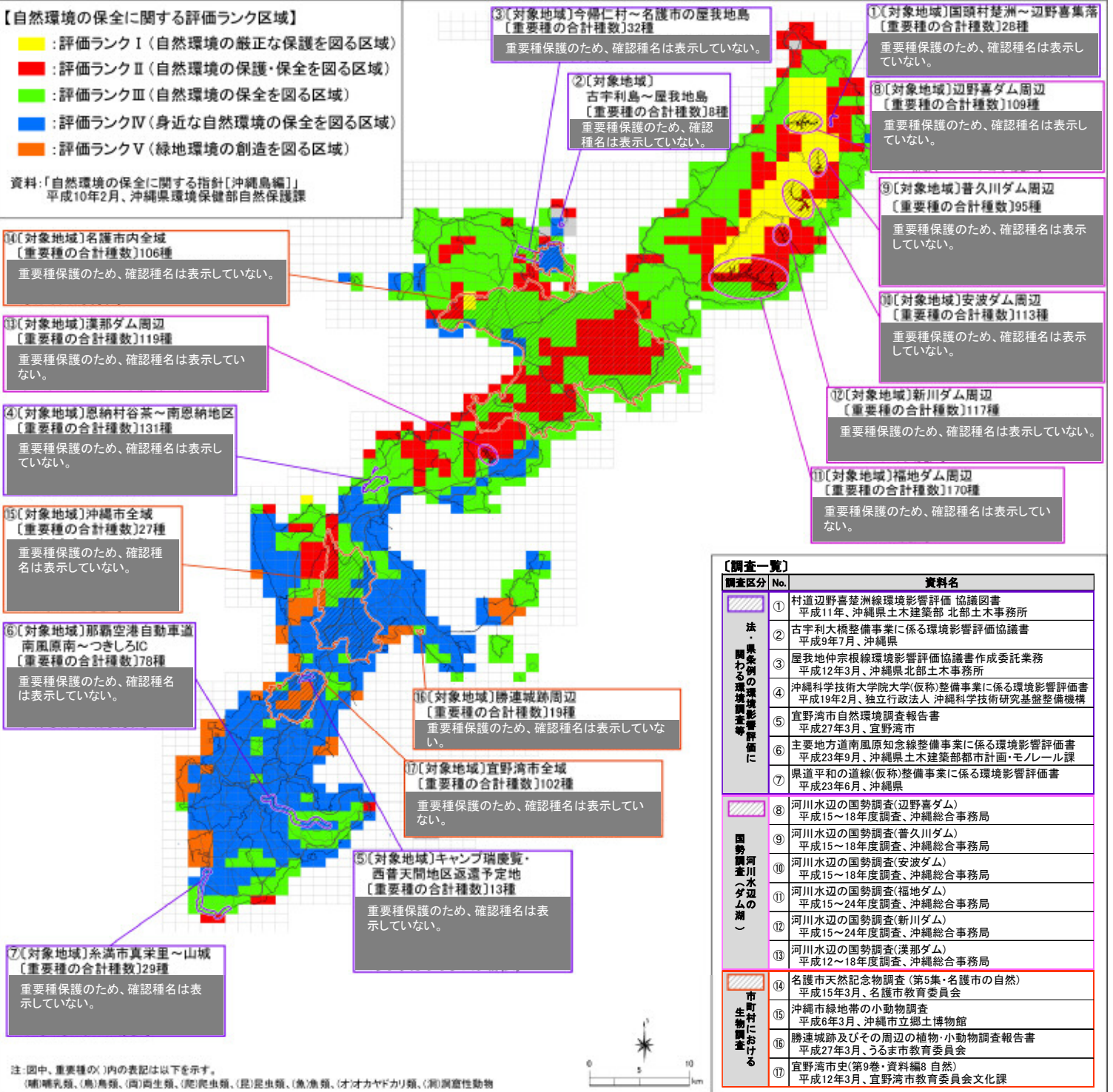
#### ② 自然環境(陸域動物)

- 自然環境の保全に関する指針によると、本島北部は自然環境の保護・保全を図る区域として評価ランクⅠ～Ⅲに区分されている。
- アセスに伴う環境調査や河川水辺国勢調査等によると、特に北部で天然記念物等の重要種が多く確認されている。

#### 【自然環境の保全に関する評価ランク区域】

- 評価ランクⅠ(自然環境の厳正な保護を図る区域)
- 評価ランクⅡ(自然環境の保護・保全を図る区域)
- 評価ランクⅢ(自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅣ(身近な自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅤ(緑地環境の創造を図る区域)

資料:「自然環境の保全に関する指針[沖縄島編]」  
平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課



【調査一覧】	
調査区分	資料名
法・県条例の環境影響評価等	① 村道辺野喜楚洲線環境影響評価 協議図書 平成11年、沖縄県土木建築部 北部土木事務所
	② 古宇利大橋整備事業に係る環境影響評価協議書 平成9年7月、沖縄県
	③ 屋我地仲宗根線環境影響評価協議書作成委託業務 平成12年3月、沖縄県北部土木事務所
	④ 沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業に係る環境影響評価書 平成19年2月、独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構
	⑤ 宜野湾市自然環境調査報告書 平成27年3月、宜野湾市
	⑥ 主要地方道南風原知念線整備事業に係る環境影響評価書 平成23年9月、沖縄県土木建築部都市計画・モノレル課
	⑦ 県道平和の道線(仮称)整備事業に係る環境影響評価書 平成23年6月、沖縄県
国勢調査(河川水辺)	⑧ 河川水辺の国勢調査(辺野喜ダム) 平成15～18年度調査、沖縄総合事務局
	⑨ 河川水辺の国勢調査(普久川ダム) 平成15～18年度調査、沖縄総合事務局
	⑩ 河川水辺の国勢調査(安波ダム) 平成15～18年度調査、沖縄総合事務局
	⑪ 河川水辺の国勢調査(福地ダム) 平成15～24年度調査、沖縄総合事務局
	⑫ 河川水辺の国勢調査(新川ダム) 平成15～24年度調査、沖縄総合事務局
	⑬ 河川水辺の国勢調査(漢那ダム) 平成12～18年度調査、沖縄総合事務局
市町村における生物調査	⑭ 名護市天然記念物調査(第5集-名護市の自然) 平成15年3月、名護市教育委員会
	⑮ 沖縄市緑地帯の小動物調査 平成6年3月、沖縄市立郷土博物館
	⑯ 勝連城跡及びその周辺の植物・小動物調査報告書 平成27年3月、うるま市教育委員会
	⑰ 宜野湾市史(第9巻・資料編8 自然) 平成12年3月、宜野湾市教育委員会文化課

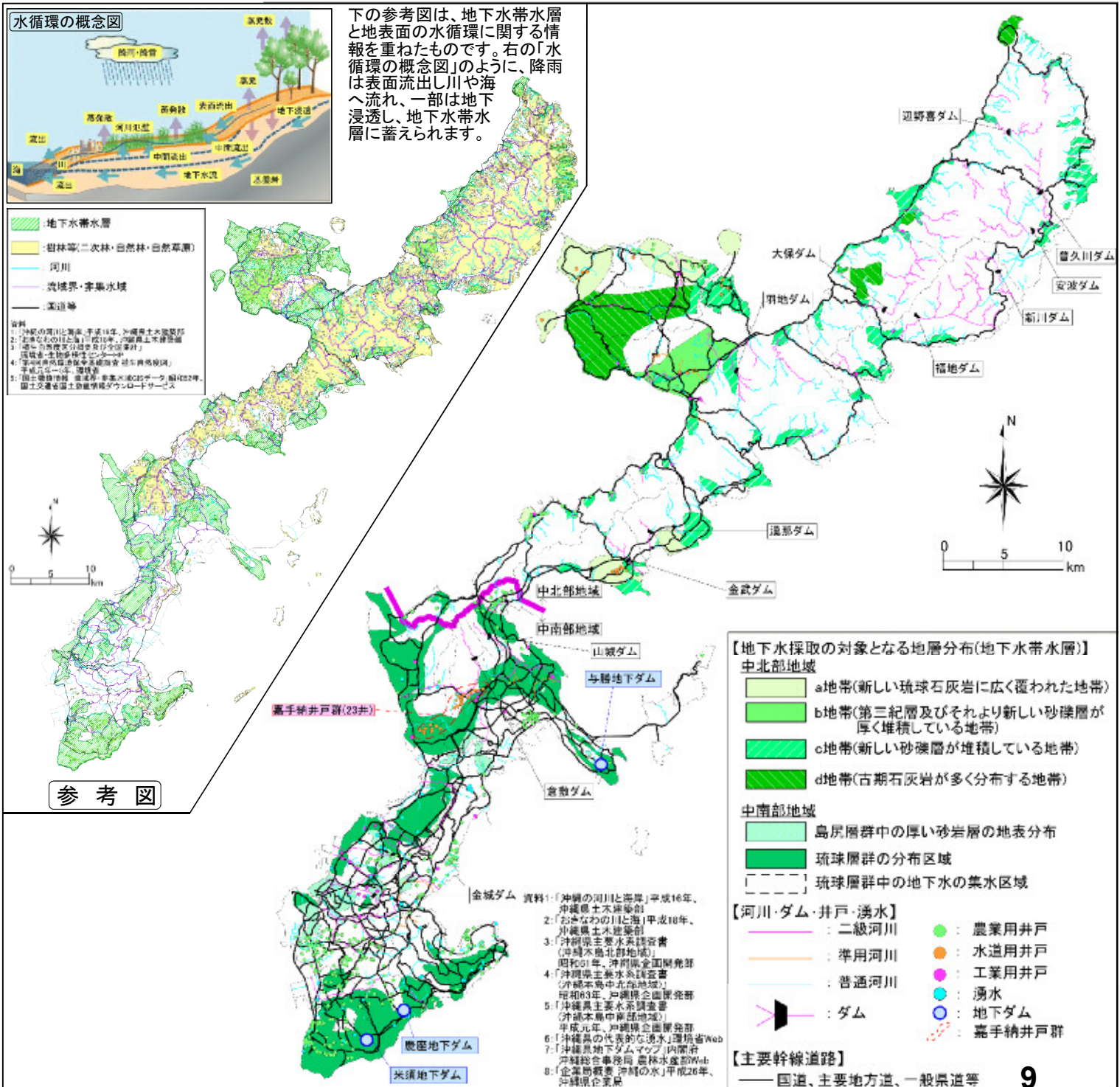
注: 図中、重要種(X)内の表記は以下を示す。  
(哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類、オオカヤドカリ類、潮間帯性動物)

# 1. 評価に必要な項目

## (3) 環境

### ③ 自然環境(地下水)

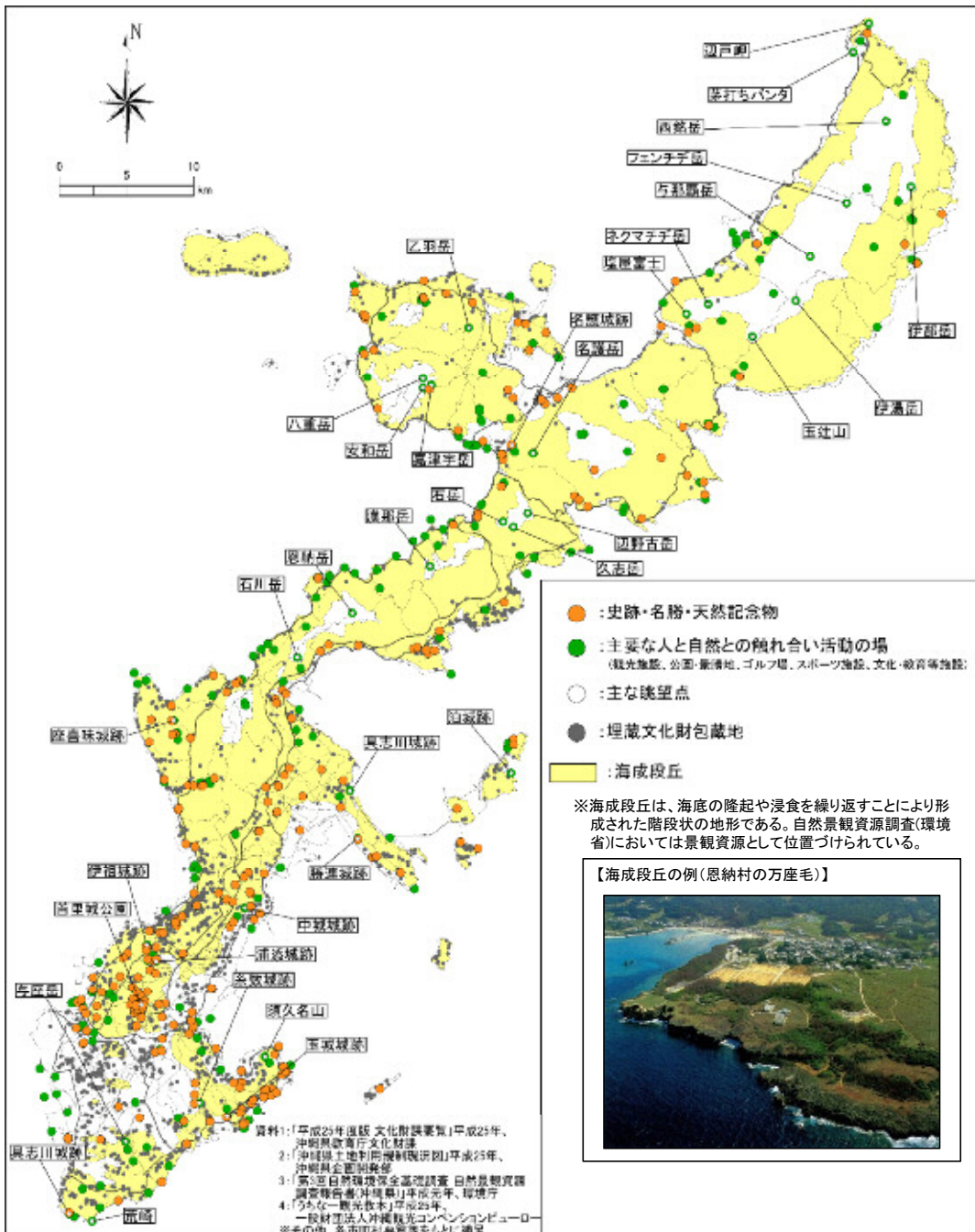
- 地下水帯水層は、北部の本部半島、中南部の糸満、宜野湾市、嘉手納町、うるま市等に分布している。
- 地下水利用については、中南部に嘉手納井戸群や米須地下ダムなどの施設があり、本島全域に井戸や湧水が分布している。



### (3) 環境

#### ④ 自然環境(人触れ、景観、歴史文化)

- 主要な人と自然との触れ合い活動の場(公園・景勝地等)は、北部西海岸や中南部に主に分布している。名護岳、勝連城跡、首里城公園などの山地・丘陵等が主な眺望点となっている。
- 景観資源として海成段丘が本島全域に広く分布し、植生等と自然景観を形成している。
- 史跡・名勝・天然記念物は那覇市、浦添市、南城市に特に多く分布している。



### (3) 環境

#### ⑤ 自然環境(景観)

- 沖縄県の景観形成において重要な区域・軸について「広域景観域・広域景観軸」として設定されている。
- 北部では、主に森や海などの自然景観が眺望の中心になっている。
- 中南部の西海岸や那覇市から沖縄・うるま市間は、都市景観軸として、基地跡地、中心市街地など複数の中心となる景観を有する。
- 中城湾では自然景観や歴史景観、南部海岸では自然景観や集落・田園風景が中心となる景観となっている。

#### 広域景観域・広域景観軸

##### 西海岸自然景観軸の目標

自然海岸を有し、リゾート立地。海浜への眺望が中心景観であり、大切な観光資源として、十分楽しめるようにする。

##### 西海岸都市景観軸の目標

本県の市部が集積・連担し、複数の中心景観を有する。特に空港・港湾から中北部へ伸びる沿道は、沖縄の第一印象を決定づける大切な景観軸であり、景観形成が急がれる。

##### 環金武湾景観軸の目標

島嶼空間を有し、穏やかで美しい海岸が広がり、伝統的な集落景観及び田園空間が広がる。海や島嶼景観への眺めに配慮し、集落・田園と調和した景観形成を図る。

##### 中城湾歴史景観軸の目標

湾と緑の丘陵が一体となって中心景観となる。3つの世界遺産グスクを有し、丘陵から湾への眺望は景観資源となる。これら一体的な景観の保全活用に向けた景観形成を図る。

##### 中南部都市景観軸の目標

本県の市部が集積・連担し、複数の中心景観を有する。特に沖縄市は米軍統治下の異国情緒漂う独特な市街地景観を残す。各地域の特色を生かした都市景観の取組が求められる。

##### 南部海岸景観域の目標

海岸線は断崖や砂浜が続く。都市化が進む反面純農村風景も見られる。平和・戦跡遺産を中心とし、海岸景観の保全、集落・田園景観と調和した景観形成を図る。

##### やんばるの森景観域の目標

本島の自然の宝庫。眺める対象としてのやんばるの森とそれを取りまく海岸線の景観が損なわれることなく今後とも維持継承する。

#### 風景づくりのキーワード

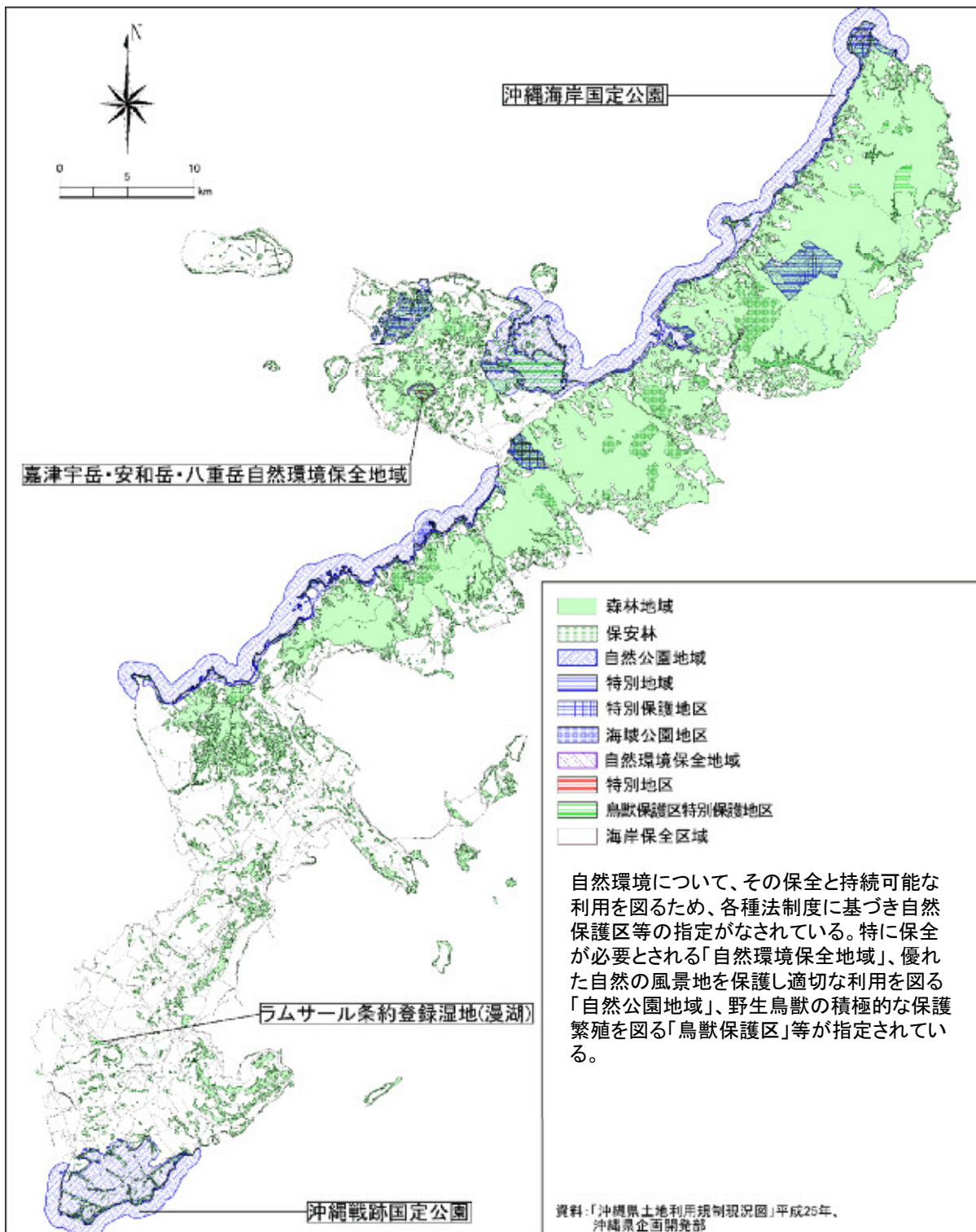
広域景観域・広域景観軸	風景の保全・回復	風景の創出
やんばるの森景観域(4市村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山並み・稜線</li> <li>■ 特色ある自然(山、海・海岸、川等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自然の地形の活用</li> <li>■ 背景となる自然との調和</li> </ul>
西海岸自然景観軸(5市町村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 代表的な視点場から海への眺望</li> <li>■ 山並み・稜線</li> <li>■ 特色ある自然(山、海・海岸、川等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 背景となる自然との調和</li> </ul>
環金武湾景観軸(3市町村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 代表的な視点場から海への眺望</li> <li>■ 山並み・稜線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自然の地形の尊重</li> <li>■ 集落・田園景観との調和</li> </ul>
中城湾歴史景観軸(7市町村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 歴史的遺産</li> <li>■ 代表的な視点場から海への眺望</li> <li>■ 山並み・稜線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 歴史的遺産との調和</li> <li>■ 集落・田園景観との調和</li> </ul>
西海岸都市景観軸(5市町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 代表的な視点場から海への眺望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 魅力あるウォーターフロント</li> <li>■ 地域の個性や連続性のある都市空間</li> <li>■ 潤いやくつろぎのある都市空間</li> </ul>
中南部都市景観軸(6市村)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ まつり・イベントの舞台</li> <li>■ 地域の個性や連続性のある都市空間</li> <li>■ 潤いやくつろぎのある都市空間</li> </ul>
南部海岸景観域(5市町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特色ある自然(山、海・海岸、川等)</li> <li>■ 代表的な視点場から海への眺望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 集落・田園景観との調和</li> <li>■ イベント・まつりの舞台</li> </ul>

出展:「沖縄県景観形成基本計画(平成23年1月)」沖縄県

### (3) 環境

#### ⑥ 自然環境(自然環境法令等)

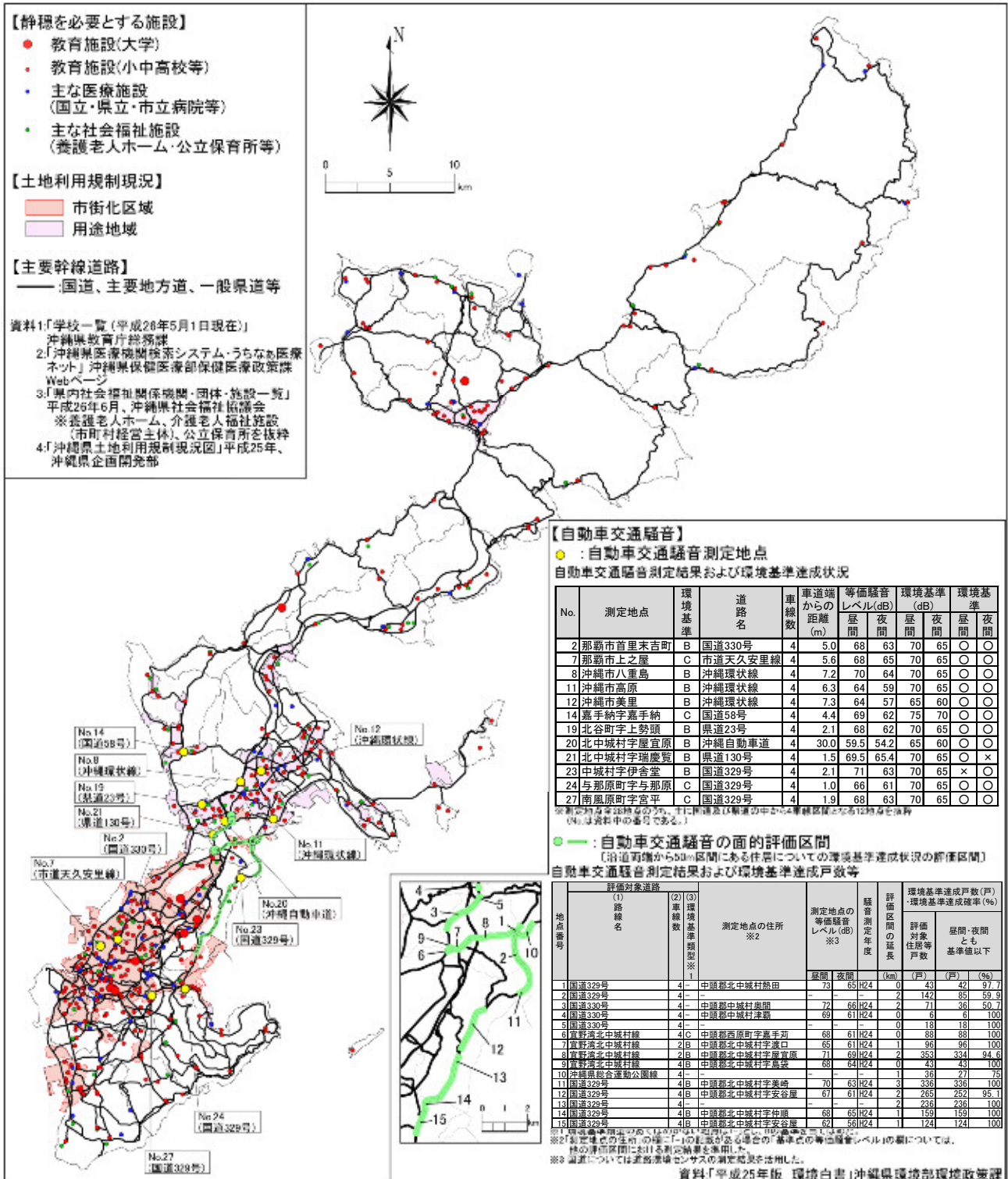
- 北部の大部分は森林地域となっており、山地部には伐採や開発に制限のある保安林に指定されている地域がある。
- 北部の西海岸等は、自然公園地域に指定がされている。



### (3) 環境

#### ⑦ 生活環境(騒音等)

- 学校等の静穏を必要とする施設は中南部の市街地に集中している。
- 都市計画区域内の市街化区域と用途地域においては、騒音に係る環境基準の類型指定、騒音規制法及び振動規制法に係る規制地域指定がされている。



### (3) 環境

#### ⑧ 都市計画区域

- 沖縄本島には5つの都市計画区域が設定され、それぞれ都市の将来像が示されている。
- 那覇広域都市計画区域は、市街化区域を設定(区域区分制度)。
- 北部圏域と中南部圏域の間に位置する金武町、宜野座村、恩納村には都市計画区域は設定されていない。

